

2、教職員に対する教育

アカデミック・スキル教育における現状の問題点は指導者が大幅に不足している事です。これはある意味当然のことですが、大多数の教員は大学の教育課程において、アカデミック・スキルに関する教育を受けていません。実は言語技術教育においても現状は同様です。

本校がアカデミック・スキル教育を特別講義として実施する目的は、講義の受講生を中学生のみならず、本校の教員もその対象としている為です。通常の授業の枠組みでは無く、教員も参加できる時間帯を活用し講義は行われます。本校ではアカデミック・スキル教育で身に付けた技術は全ての教科において活用されるべきであると考えます。その為には全ての教員がアカデミック・スキル教育の本質を理解することが不可欠です。

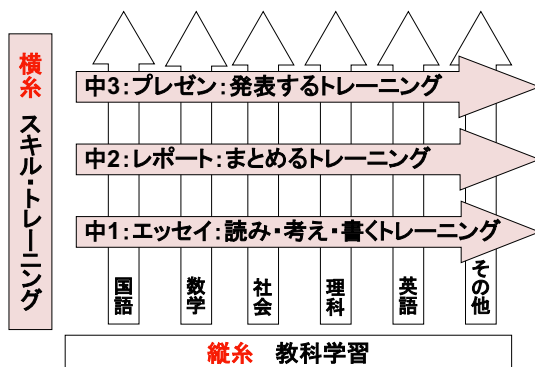
3、他教科における実践

アカデミック・スキル教育で身に付ける学習技術は全ての教科学習でその力を発揮します。例えば理科の授業では「光の性質」について課題図書又は資料を読んでレポートとして原稿用紙2枚にまとめる宿題を出すなど、記憶力重視の穴埋め式、選択式の問題から読書力、思考力、文章力を問う文章問題へと宿題やテストの幅が広がることも容易に想定されます。文章を作成する過程ではその教科の内容についてより深い思考を求められますが、それにより生徒自身の教科に対する理解が深められることも明らかです。今までの教育では生徒が文章を書く機会は国語科での作文や道徳の授業の感想文など限られたものでした。これは文章作成の指導は国語科の教員がするものとの暗黙の了解があったことによります。国語科では様々な文章フォーマットを指導しますが、その基本は起承転結の文章フォーマットや5W3Hの文章フォーマットであり、理科の実験レポートを作成する為の文章指導や、答えが一つで無い、解決が困難な問いに対して自分の考えを論理的にまとめ、第三者を説得するための文章指導は今までの国語科の授業ではあまり取り上げられることはなかったと思います。

本校がアカデミック・スキル教育を国語科とは独立し、特別講義として実施する目的は、全ての教科で共通して活用することの出来る学習技術を習得して、全ての教科で実践することで、学習技術を更に高めて行くことにあります。

アカデミック・スキル教育は、特別講義の中でトレーニングが完結するものではありません。英語、理科、道徳など全ての教科がトレーニング実践の場となります。

明德義塾中学校 アカデミック・スキル教育 教科学習とスキル・トレーニング



教科学習

中1から中3にかけて学習を積み重ね、各教科ごとに、よりレベルの高い内容を学習します。

スキル・トレーニング

各学年での教科学習と並行して、アカデミック・スキル（エッセイ・レポート・プレゼンテーションなど）を、段階的にレベルを上げてトレーニングしていきます。

4、大学で、社会で求められる人材の輩出

文科省は指導要領の中で「生きる力」の一つの要素として次の能力を掲げています。「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」。

本校は文科省の指導要領を基本とし、更にアカデミック・スキル教育を私学の特色ある取り組みとして位置づけ、大学で、社会で求められる人材の輩出に貢献したいと考えます。

明德義塾中学校・高等学校

〒785-0195 高知県須崎市浦ノ内下中山160
TEL: 088-856-1211 (代) FAX: 088-856-3214

HP: www.meitoku-gijuku.ed.jp E-mail: info@meitoku-gijuku.ed.jp



アカデミック・スキルをトレーニングで身につけさせるという明德義塾のプログラム。その必要性は「生きる力」だけでなく、全国学カテストなどの議論の中で繰返し語られてきました。

明德のプログラムで、スキルを身につける方法を、高橋さんは野球のトレーニングと類比させています。野球の強豪校らしい紹介の仕方ですね。在校生の9割近くが運動クラブに参加する明德の生徒にとって、取り付き易く、高い効果を生むプログラムのようなです。期待しましょう。